

研究主題 「心豊かな生徒の育成を目指して」

～探究活動による道德教育の推進～

埼玉県立深谷高等学校

1 研究主題の設定理由

令和4年度から新教育課程となり、さらに生徒に多様な価値観について探究活動を中心に主体的に学ぶ機会を与えるとともに、本校の教育活動全般を通して道德教育を推進したいと考えている。

また、渋沢栄一翁の教えを受け継ぎ、深谷市の教育の基本理念となっている、「立志の精神」・「忠恕の心」についても触れ、より地域との接続教育を意識した生徒の育成を目指したい。

2 研究の仮説

- (1) 探究学習や体験、振り返り等の多面的な活動を通して、自己理解や他者理解を深めることができるのではないかと。
- (2) 地域の教育力を活かし、偉人である渋沢栄一翁の生き方について触れることにより、生徒の意識に変化があるのではないかと。

3 研究の経過

時 期	内 容
年 間	総合的な探究の時間における探究学習（年間） 各教科の特質に応じた在り方生き方教育（年間） 「明日をめざして」を活用した指導法の研究 キャリアパスポートの作成による振り返り
5月17日	職員による事業所視察
6月20日	外部講師による修学旅行事前学習（平和学習）
10月23日	P T A研修旅行
11月9日	研究発表会（地歴公民科 公開授業・研究協議）
11月29日	パラリンピック選手による講演会
12月5日	修学旅行 事後学習（平和学習）
1月26日	「渋沢栄一翁かるた」大会

4 研究の内容

- (1) 総合的な探究の時間における探究学習
 - ① 修学旅行事前学習「平和講演会」・事後学習

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

6月20日（月）に2学年を対象とし、講師にNPO法人原爆先生 池田眞徳氏による「平和講演会」を実施した。原爆投下時の状況や投下後の状況についての講演により、改めて「平和」について考える機会となり、11月に実施した修学旅行での広島での学習を効果的なものとした。12月の事後学習では、人間らしさが踏みにじられる核兵器による悲惨な状況が二度と起きないよう平和の尊さを中心に現地で学んだことを振り返り、自分の言葉で表現した。

② 埼玉ゆかりのパラスリートによる「体験型講演会」

11月29日（火）に1・3学年を対象とし、講師に東京パラリンピックに「走り幅跳び」の日本代表として出場された小久保寛太選手と樋口進太郎コーチを迎え、「体験型講演会」を実施した。スポーツで得た経験や体験談や障がいについて講演していただくとともに陸上競技用の車いすの体験をすることにより他者理解を深めた。



終了後の振り返りでは生徒から様々な気づきを得た様子が見られた。「目標を持ち、何事にもあきらめずに挑戦したい。」「基礎が大切であることを学んだ。基礎をしっかりと身に付けることを意識したい。」「小久保選手が自分に合った練習を考えていたように自分にあった生き方を考えていきたい。」と生徒はこれからの生活に生かしていこうと思ったことをワークシートに記入した。

③ 平和学習ポスターセッション

12月19日（月）、2学年時の修学旅行を意識し、1学年が「平和」を軸に6月から取り組んだ探究学習の成果発表を行った。生徒は自分の興味のあるテーマを6つの中から選び、段階的に学習に取り組んできた。本時は同じテーマを設定した生徒がグループとなり、考えをまとめて発表した。その後、各テーマの代表グループがオンラインを通じて発表することで、他のテーマで学んだ生徒の学びを共有するとともにポスターを廊下に掲示し、他学年に向けても発表した。

「平和と深谷」を選択したグループは「なぜ、渋沢栄一が一万円札に選ばれたのか」について考察し、渋沢栄一翁の功績に理解を深めていた。



埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

④ 「渋沢栄一翁かるた」大会

1月26日（木）、1学年でかるた大会を実施した。

「渋沢栄一翁かるた」には、郷土の偉人である渋沢栄一翁の幼少期から晩年までの出来事や功績が盛り込まれている。かるたを通じて渋沢栄一翁の生涯について理解を深め、生徒が主体的にルールを決めながら進行していた。



(2) 各教科の特質に応じた在り方生き方教育

11月9日（水）、地歴公民科2名の教員が公開授業を実施した。自己の在り方生き方を振り返り、自らの生き方在り方を探究することをねらいとした。

① 1時限 地理総合 「生活文化と産業」 斎藤 敦 教諭

教科書を用いて産業の情報化について講義をした後、「これからも産業の情報化は進む。ICTもAIも発展する。この先、自分はどのように働きたい（学びたい）だろうか。」と問いを立てた。課題に対して、自分の言葉で書くことを支援し、周囲の生徒に対して、自分の考えを発表する時間を持ち、共有した。まとめとして、授業の振り返りを実施し、生徒が自己評価をした。

② 2時限 日本史B 「平家物語」 杉本 祐輝 教諭

授業を通して、生徒のメタ認知を促し、自身に対する問い直しを期待した実践を意識した。「私たちは、『平家物語』という作品を後世に残す努力をするべきか？」と問いを立て、ジグソー法を用いた授業を展開した。中世という時代背景や多様な分野の専門家の意見を資料として用意し、活動を通じてグループで意見をまとめた。

生徒はあたり前だと思っていることが問い直してみるとこれまでとは異なる考えがあることに気づいた。

(3) 「明日をめざして」の活用

在り方生き方全体計画に各学年ともに取り組むテーマずつを位置づけた。1学年では3月に「誠の心～渋沢栄一物語～」に取り組むことにより、かるた大会に続いて、渋沢栄一翁の生き方について触れる機会を持つこととしている。

(4) キャリアパスポートの作成による振り返り

年度当初と各学期の終了時に振り返りをするとともに学校行事についても事前・事後と記入欄を用意し、自分が成長したと思う点や今後に活かしていきたい点について表現をし、次の目標設定につなげた。

(5) 事業所視察

5月17日（火）、制服検討プロジェクトチームを中心に職員が光和衣料株式会

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

社を視察し、制服を製造する製造工程や製造をされる際に配慮されている点について説明いただいた。社員の方々が作業を止めて、挨拶や作業工程の説明をしてくださる姿勢や風通しが良く活気あふれる社風を感じた。生徒や保護者等へ実施した制服に関するアンケート調査結果を踏まえ、LGBTQやSDGsへの配慮や着心地の良さ、深谷高校生としての在り方を意識した制服について、意見交換をした。

(6) PTA研修旅行

10月23日(日)、渋沢栄一翁を訪ね、バス旅行を実施した。地元である中の家(生家)や渋沢栄一記念館、誠之堂・清風亭、鹿島神社で説明を受け、改めて功績を実感した。保護者と力を合わせ、また、地域の教育資源を活用して生徒の成長を促していくことの重要性を感じた。



5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

研究を通じて、授業においては、生徒に対する「問い」の重要性を再認識した。また、教育活動全般を通じて、「振り返り」を意識し、自身の在り方生き方を考えるようワークシートを工夫した。

また、地域連携を意識し、11月に深谷市立常盤小学校で開催された渋沢栄一翁の孫である鮫島純子氏による講演会に出席するとともに深谷市立豊里中学校が本校と同様に道徳教育モデル校として実施した研究発表を視察し、内容を職員全体で共有することにより地域の中学校での道徳教育について理解を深めることができた。改めて、地域の教育力を活かし、保護者と力を合わせて生徒の成長を促すことが重要であることを認識することができた。

1月に全校生徒を対象に実施したアンケートでは「頭髪や身だしなみをきちんとし、時間を守って行動している」という質問項目に対し、「そう思う・ややそう思う」と回答した生徒が88.0%であり、大半の生徒が「規範ある態度」を意識し、生活している様子が見られた。

(2) 研究の課題

年間計画を立案したものの年度途中で変更をすることが多かった。総探委員会が中心となり、「在り方生き方教育年間計画」を立案しているが、各学年の「総合的な探究の時間 年間計画」と連鎖していない面が見られた。また、計画をしていた近隣小中学校への公開授業が日程的な面で実施できなかったことが大きな反省点である。

早い段階で計画をすることで交流を深め、接続教育についてさらに意識をしていきたい。今年度の状況を踏まえながら、次年度も主題についての研究を継続して進めていきたい。